

楽しみ、学ぶ、貴重な体験

～芸人ガリベンズ矢野さん講演～

先週の金曜日はシブヤ科「人・仕事から学ぶ」という取組の一環として、お笑い芸人のガリベンズ矢野さんに来ていただき、講演をいただきました。7年生は速やかな動きで会場に移動し、うきうきしつつも緊張しながら待っていました。そこに、ひろゆきさんのものまねで矢野さんが登場。全員心をつかまれ、あっという間の1時間でした。ほかにもご披露いただいたそっくりなものまねには笑いと、「似てるー！」驚きの声が上がりました。

前半は芸人というお仕事について語っていただきました。芸人になりたかった矢野さんは、お父様や大学の先生とのやりとりを経て、大学院を修了し、教員免許を取るという経歴をもつに至ったそうです。遠回りに見えてもその経験が今につながる部分もあるというお話があり、先行きの見えない人生は不安もあるけど、面白くもあるな、とみなさんのこれからに希望が湧きました。



また、「自分の価値は他人が決める」というお話もありました。それが人を笑わせる世界に生きる方の厳しい現実なのだと私は思いましたが、矢野さんは「それがわかればこれからちょっと楽になる」とおっしゃっていました。自分に厳しくいることは大切ですが、それは時に自分を苦しめることにもなります。人に頼ったり、完璧じゃなくても何とか仕上げてその場を乗り切ることも大切です。人に伝える力は、そういうときに役に立ちます。

後半には相手への伝え方の工夫を3つ教えていただきました。声のトーン、間、話すスピードです。時々裏声を使う、大事だと思う部分でゆっくり話す、間を取るという、相手を意識したしゃべり方は、すぐにでも実践できます。また、話すときにここは大事、伝えたい、という気持ちをもって話すことも大事なのかな、と感じました。これからの発表などで生かせるといいですね。実際に2人組でマスクをしたまま目だけで伝える、などのワークもして、7年生は楽しそうに取り組んでいました。

全体を通して、矢野さんの講演は、コロナ禍を生きる中学生を勇気づけるような内容でした。矢野さんは「こういうことを知っていると、これから楽になるよということを中学生に知ってほしい」と講演の前にもおっしゃっていました。知りたいことを知り、なりたい自分になる、そして周りの人にも応援してもらう、そんな生き方をして、自分のキャリアを形成していけるよう、応援していただいているような1時間でしたね。

また、今回は学年を代表して〇〇さんが謝辞を述べました。人を笑わせようと普段からいろいろ工夫している〇〇さんは、人を楽しませることの楽しさと難しさを感じています。だからこそ芸人という職業の偉大さがわかるという〇〇さんの言葉は、熱意がこもっていて素晴らしかったです。

7年生は感性が豊かで、将来に向けて無限の可能性があります。そういう大事な時に、いろいろな人に出会い、普段の授業では学べないこともたくさん学んでほしいと思って今回の講演をお願いしました。これからも多様な学びを楽しんでほしいと思います。



学年主任 渡辺菜津子

当日の様子をライブイベント配信する予定でしたが、配信ができませんでした。申し訳ありませんでした。つきましては、生徒用タブレット7年全員 team の投稿に当日の動画をアップしましたのでそちらをご覧くださいと思います。

